

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第16号】2013年3月29日発行

3.11 追悼企画「いのちのつどい」

3キャンパスで開催

災害復興支援室では、東日本大震災発生後の立命館の復興支援の取り組みをふまえ、今後「わたしたちができること」について学内構成員（学生・生徒、教職員、関連組織）が共有、学内外に発信する場として、3月11日午後より衣笠・BKC・朱雀の3キャンパスで「いのちのつどい」を企画・実施しました。

●導入企画（衣笠）



衣笠キャンパス会場となった以学館地下食堂では、14:00より応援団吹奏楽部による演奏・合唱が行われました。

応援団吹奏楽部は、去る2012年10月に54名の部員が宮城県石巻市・東松島市を訪問、現地の中・高生たちとの合同練習と合同演奏会を通じ交流を行いました。この導入企画では10月の交流の際にも中高生たちと合唱をした思い出の曲「明日という日が」を、吹奏楽部が演奏と合唱を行いました。

●追悼のとき（衣笠・BKC・朱雀）

3キャンパスに教職員、学生と、地域の方々が集い、献花・献灯を行うとともに、東日本大震災発生時刻14:46に黙祷を捧げました。黙祷の前後では、復興支援活動に携わる学生・教職員が震災復興に寄せる思いや、必要な支援について思いを語りました。

●報告会「おじゃこタイム」（衣笠）

これまで災害復興支援活動を行ってきた教職員や、教職員と共に活動に取り組んだ学生・生徒たちが、計13テーマ（下表）について報告を行い、約80名の参加者による意見交流を行いました。会場では、3つのテーブルに別れて報告者を参加者囲んで着席し、報告者と来場者の意見交換、報告者同士の議論も活発に行なわれました。



●総合防災訓練（BKC・朱雀）

草津市消防局、京都市消防局の協力を得て、教職員・学生による防災訓練を行いました。BKCには地震の揺れを体験できる起震車体験も実施されました。



●学生交流企画（衣笠）

学生によるこれまでの取り組み報告と、今後、学生にできる復興支援を考えることを目的に、学生主催による報告会・ディスカッションが行なわれ、約60名の来場がありました。



<報告を行なった学生（団体）>

- 1) ふくしまボランティア便「そよ風届け隊」西崎芽衣さん（産社1回）
- 2) 参考書宅教便・被災地の受験生に参考書を～太田晴子さん（政策1回）

●3月11日(月)おじゃこタイム

「研究推進プログラム」教職員による取り組み報告テーマ

流亡研究と文化心理学理論に基づく風評被害の実態と理論化

一風評被害低減策の可能性ーサトウタツヤ 文学部教授

災害復興のための金融・技術・税務に関する研究

大垣 尚司 金融・法・税務研究センター長、法学研究科教授

人のつながりを大切にしたい支援

八反 和之 立命館守山中学校・高等学校教諭

被災地デジタルフェニックスプロジェクト

長野 正道 生命科学部教授

ホワイトスペース特区を活用したエリアワイド放送による「キャンパス

地域連携型防災メディア」の可能性の実証研究／細井浩一 映像学部教授

仮設住宅における生活騒音の快音化

西浦 敬信 情報理工学部准教授

東日本・家族応援プロジェクト 2012in 遠野／福島

村本邦子 応用人間科学研究科教授

気仙地区産直グループHP制作・更新・ネットワーク構築支援

松野周治 経済学部教授

仙台城址城壁の地震動に対する安定性に関する検討および地盤調査等

を含めた総合的管理手法の提案／深川良一 理工学部教授

成長期のこどもの運動・食習慣と健康状況に関する研究

田畑泉 スポーツ健康科学部部長

ねじりを含む組み合わせ断面力を受けるRC部材の耐震機構と合理的な

補修設計の提案／岡本 孝久 理工学部教授

広域に渡る地域間連携を念頭に置いた巨大津波地震による被災地復興計画の提案

谷口 仁士 グローバルイノベーション研究機構教授

思い出の想起・利用支援による震災復興支援

仲谷 善雄 情報理工学部教授

- 3) 頑張れ東日本 復興支援「ミンナ DE カオウヤ」白井雄士さん（文2011年度卒）
- 4) 仮設集会所 ODENSE 建設プロジェクト 松井宏さん（理工M1）
- 5) 京産大・復興支援組織を結成、解散- 吉田拓矢さん（京産大学2回）
- 6) Youth for 3.11 関西支部 プログラムチーム 谷口大暉さん（産社1回）
- 7) 日本中へ届けよう！元気のはがき 復興支援プロジェクト「元気だ状」服部智彌さん（経営3回）
- 8) 備えてつながる防災体感プロジェクト～with living（外国人対象防災プログラム）渡部葵さん（政策1回）

★★参加学生の声

○震災ボランティアをすることについて「交通費にお金がかかる」「現地に行く時間をつくれなくて」と言う学生は多いと思います。私も課外活動の忙しさを理由に入学後2年何も行動ができませんでしたが、一度行くだけでかなり意識が変わります。ボランティアというところが大事だと考えがちですが、些細なことでも被災者の方は喜んで下さいます。特に仮設住宅には20歳代の人がいないため、高齢者の方は若い人と話す機会がないため、若い私たちが何うだけで活気ついて笑顔に向けてくださいます。まだ被災地に行っていない人にはぜひ、現地に足を運んでほしいと考えます。
(16便/政策2回生)

想いやボランティア経験を始め、双方の国の連携についてディスカッションを行いました。当日の様子の詳細や写真について、災害復興支援室ウェブサイトや、大学公式facebookで紹介しています。



ボランティアバス企画

春期休暇中に計4便運行

●2月派遣【15便遠野】【16便大船渡】

第15便では学生13名が岩手県のNPO法人遠野まごころネットを拠点に屋外での支援活動に従事。第16便は学生14名が大船渡市の仮設住宅でサロン企画を主催しました。

●3月派遣【17便遠野】【18便宮古】

第17便で学生11名が遠野市を拠点に岩手県沿岸部で活動を、第18便は学生11名が宮古市の地域のコミュニティスペースを会場に、将棋や落語、ミサガづくりの企画を実施しました。



台湾・淡江大学との震災復興

学生交流を実施

2013年3月7日～9日台湾・淡江大学にて立命館大学生と淡江大学生による学生フォーラム「震災復興と東アジアを担う若者の使命」を開催し、淡江大学より23名、立命館から13名の学生が参加しました。フォーラムでは、日・台の学生が復興への



これからの主な取り組み

○4月上旬～1週間を予定 : 写真・企画展「リメンバー大槌」(BKCキャンパス内)

被災した岩手県 大槌町住民が撮影した写真と、朝日新聞の震災報道記事の展示を行います。詳細が決まり次第、HP等でお知らせします。

○4/1(月)～5(金) 仮設集会所建設プロジェクト ODENSE 模型展示 (衣笠・充光館横)

新歓期間にあわせて、新入生に立命館の復興支援活動を発信することを目的に、写真展・展示を開催します。



編集後記

震災から3年目を迎えるにあたり、災害復興支援室では3月11日に様々な学内の部署や学生たちと連携し「3.11追悼企画 いのちのつどい」を実施しました。当日の会場には、これまで学内で取り組んだ支援プロジェクトでお世話になった方や、ボランティアバスに参加した学生など、見覚えのあるお顔も多く、この震災により生まれた様々なご縁やつながりについて、再確認をする1日にもなりました。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第16号】

発行人・編集 立命館大学災害復興支援室

Tel 075-813-8130 (総合企画課内)

メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp

HP <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>

立命館では東日本大震災発生2011年4月21日に「立命館災害復興支援室」を設置し、被災地域の大学からの支援要請など緊急的・総合的に判断・対応を行なう窓口として活動を開始しました。現在は、学生の支援ボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートを行なうとともに、ひきつづき学内外の情報発信と支援ニーズ・シーズの整理・具体化に関する調整を行なっています。